

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2021年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2022年 月 日 提出

1. 研究課題名	
北米日本美術品のデジタル・アーカイブによる WEB 版総合目録構築とその活用 (英文標記: Making WEB Union Catalogue of the Japanese arts in North America and the application)	
2. 研究代表者	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
[ローマ字] Bincsik, Monika	[英語] Metropolitan Museum, Associate Curator
3. 研究分担者 (合計: 9 名)	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
Janice Katz	Art Institute of Chicago, Associate Curator
Hans Bjame Thomsen	Professor and Chair, Section for East Asian Art, University of Zurich
Toshie Marra	カリフォルニア大学バークレー校・東アジア図書館・日本担当司書
Julia White	Curator of Berkeley Art Museum and Pacific Film Archive
John Carpenter	メトロポリタン美術館・日本部門主任学芸員
赤間 亮	立命館大学文学部・教授
李増先	立命館大学衣笠研究機構・助教(2020.4~)
常木佳奈	立命館大学文学研究科・D5
戸塚史織	立命館大学文学研究科・M2

<p>4. 研究課題の概要 (300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)</p>
<p>本研究は、北アメリカの博物館や個人コレクターが所有する日本美術品を、ARC のデジタル・アーカイブ技術を借りてデジタル化を進め、1館毎の博物館の壁を越えた総合的な日本美術品カタログを共同作業によってWEB 上に構築するものである。このプロジェクトでは、従来の冊子目録のレベルを脱して、画像情報あるいは3次元モデルを作成して ARC のリソースデータベース群に搭載し、各機関の収蔵品の比較検討を可能とし、メンバーが相互にオンライン上で情報交換できる環境構築する。そして、一般公開作品をさらに拡大し、Japan Search 等のプラットフォームへの登載に繋げ情報流通を加速化する。</p> <p>なお、これまでヨーロッパと北米の両地域を対象としていたが、コロナ禍の現状を鑑み、今年度、本プロジェクトでは、対象を北米に絞って活動する。</p>
<p>5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)</p>
<p>ARC のデータベース群が持つ研究者向けに開発された様々な機能を駆使し、効率よくメタデータを作成、解説・翻刻などの専門性を要求される情報を、メンバーによって蓄積している。</p> <p>ユーロピアーナや、Google Art and Culture、あるいは、日本の文化遺産オンラインのような一般閲覧者を利用者として想定するのではなく、学芸員や研究者の専門的な知見が蓄積され、研究論文のための情報源、学芸員の日常の展覧会の設計・内容の充実化が図られ、そうした段階を経て、一般ユーザーに作品の理解をよりいっそう促す、新たな知見による解説・企画を届けるようにするための情報基盤構築活動である。</p> <p>知識や意見の交換、アノテーション付与、解説支援機能など高度な情報蓄積・コミュニケーション機能を提案しており、ARC データベース群のシステム開発にも貢献した。2021 年度は、ARC のデータベース群を「ARC リサーチスペース」として、ワンランク上の総合システム化を提案し、レファレンスデータベースの充実にも努めた。</p> <p>今年度もコロナ禍によって、立命館若手研究者による海外アーカイブは、今年度も実現を見なかったが、本プロジェクトが、共同研究拠点のプロジェクトとして継続してきたなかで蓄積してきたデータ、とりわけリソースデータベースのメタデータ充実に務めた。</p>
<p>6. 研究業績 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)</p>
<p>本年度もコロナ禍は解決せず、研究活動は制限されたが、以下のような活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, デジタル化済みヨーロッパ各所蔵機関収蔵の作品も含め、メトロポリタン美術館、シカゴ美術館、バークレー美術館の浮世絵メタデータの充実を図った。 2, ARC 浮世絵ポータルデータベースに、AI 画像マッチング型検索機能が追加され、かつ ImageNote 機能の能力向上により、マイクロデータ型情報蓄積を行った。 3, とくに勝川派浮世絵のメタデータ、とりわけ役者絵の上演情報考証を実施し、データ化した。 4, ARC バーチャルインスティチュート上に「勝川派デジタル研究所」を開設した。 5, UCB の東アジア図書館に所蔵される「美術品入札目録」のデジタル化、ならびに細目データ化をターゲットとし、海外他機関、日本国内の研究状況を確認した。 <p>(2) 論文</p> <p>Bincsik, Monika, Collecting inspiration : Edward C. Moore at Tiffany & Co., The Metropolitan Museum of Art New York, 2021</p> <p>赤間 亮, 浮世絵の中で"妖怪画"はどのように描かれてきたのか, アート・リサーチ, 22-1 号, 2021.11, pp.1-7</p>